



# 2022年6月期決算説明会

---

2022年8月17日

株式会社キャンバス  
(東証グロース 4575)

# 決算と財務の状況

---

# 2022年6月期の業績 (1)損益計算書

## 2022年6月期損益計算書のポイント

### ➤CBP501臨床開発で先行投資赤字を計上

- ✓ 2022年6月期事業費用607百万円の内訳：基礎研究費\*1 154百万円・臨床開発費\*2 453百万円・販管費238百万円  
基礎研究費・販管費には年ごとに大きな変動はなく、臨床開発費が主な増減要因
- ✓ 臨床試験が想定よりも順調に進捗したことから臨床開発費が前期より193百万円増加  
2023年6月期に見込んでいた費用の前倒しであり、健全な費用増

### ➤事業収益計上に至らず

	2022年6月期	前期比	%
事業収益 (売上高)	—	△108 百万円	△100 %
営業利益	△846 百万円	△190 百万円	
経常利益	△854 百万円	△299 百万円	
当期純利益	△855 百万円	△324 百万円	

\*1 共通の人員・設備・消耗品等が多数あるため、基礎研究段階のプロジェクト個別の費用内訳は算出していません。

\*2 臨床開発費は全額CBP501関連の費用です。CBS9106に関する費用はありません。

### CBS9106ライセンス契約に基づく収益

- 2014年12月締結・2018年8月拡大により、過去に**累計717百万円**を受領
  - ✓ 契約一時金：2014年12月・2018年8月にそれぞれ受領
  - ✓ 技術アドバイザリーフィー：一定期間受取る契約（2021年6月まで）
- 技術アドバイザリーフィーの期間は**2021年6月で終了**
- **今後もマイルストーンペイメント・ロイヤルティ等の条項は変更なし**
  - ✓ 臨床開発の進捗に伴う収益
  - ✓ 収益の性質上、具体的な時期・金額の見通しは現時点で困難

### 新規提携等による事業収益獲得に向けた取り組み

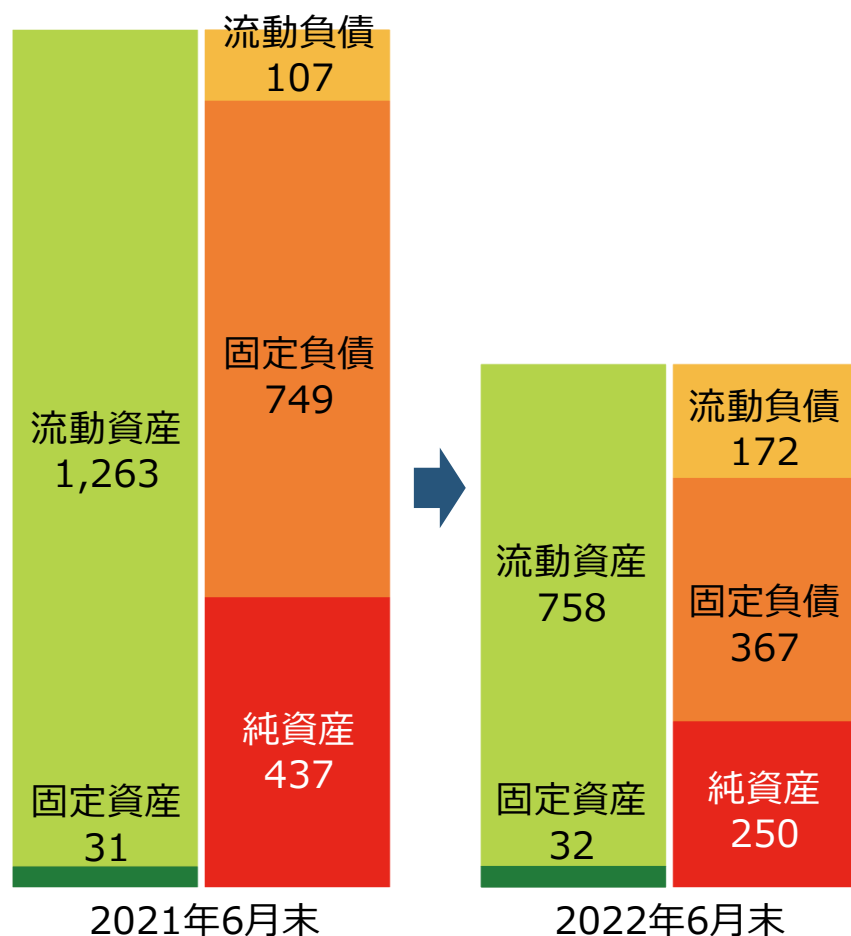
#### ➤ CBP501

- ✓ 国内外製薬企業等との交渉折衝を重ねたものの、提携獲得には至らず
- ✓ 注目を集める領域以外での提携に製薬企業等が消極的な傾向がさらに強まり、この傾向（& 臨床試験の構造変化など）を踏まえ自社開発に舵を切る創薬企業が続出
- ✓ 一方で後期開発終盤の提携市場は依然として活発

#### ➤ その他のプロジェクト

- ✓ 前臨床試験直前のもの：早期アライアンスによる収益獲得を図る
- ✓ 基礎研究段階のもの：リード化合物獲得へ

## 2022年6月期の業績 (4)貸借対照表の推移 (単位：百万円)



### 2021年6月期末からの主な変化

#### ➤ 流動資産

- ✓ 現預金 1,154 → 737
  - (-) 営業CFマイナス、CB一部買入消却
  - (+) 新株予約権行使による資金調達
- ✓ 前渡金 71 → 0
  - 臨床第2相試験進捗に伴い支払いに振替

#### ➤ 流動負債

- ✓ 未払金 85 → 138
  - 臨床第2相試験進捗に伴う増加

#### ➤ 固定負債

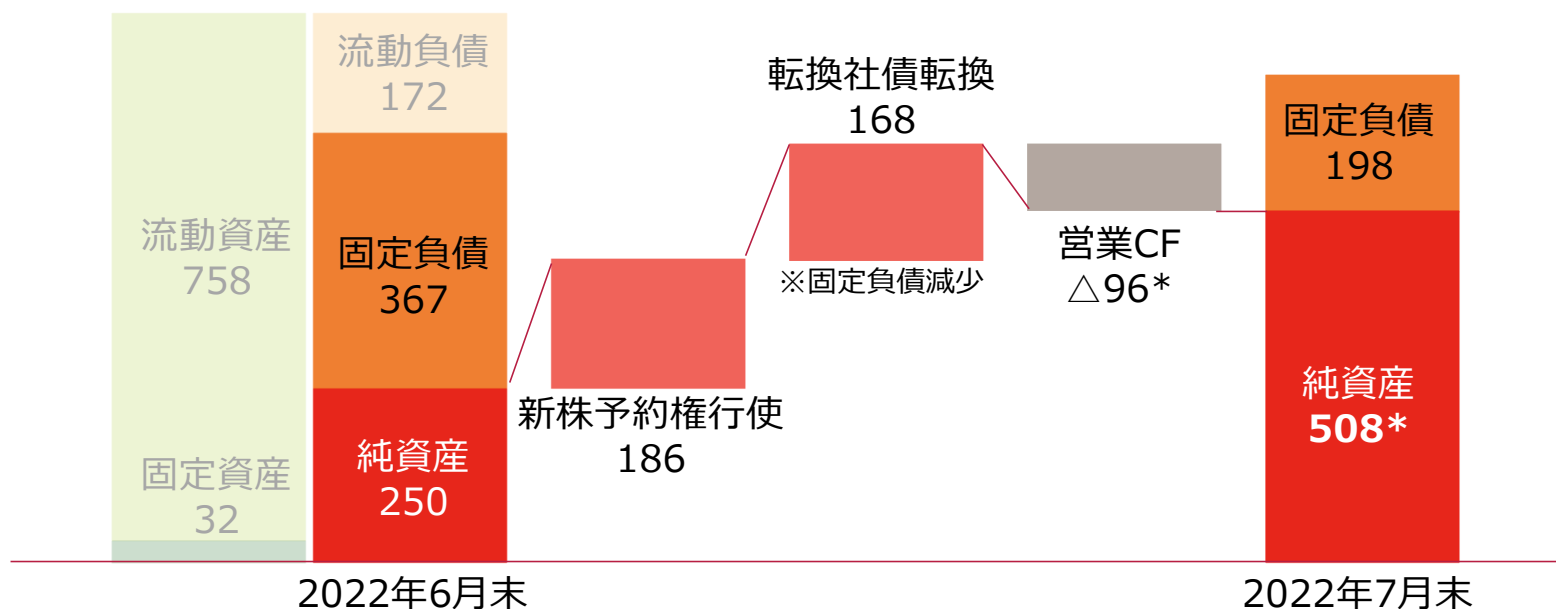
- ✓ 転換社債 749 → 367
  - リファイナンス後に一部買入消却し減少

#### ➤ 純資産

- ✓ 第13回・第17回新株予約権行使による資金調達

# 新株予約権行使・転換社債転換による財務健全性向上

2022年7月 1ヶ月間の純資産・固定負債の推移 (単位: 百万円)



現在、第17回新株予約権の行使と第4回転換社債の転換が並行して進んでおり、営業CFマイナスながらも当社の財務健全性は継続的に向上しています

\*2022年7月の営業キャッシュフローは、本資料提出時点までの集計と推定による未確定・未監査の数値です。したがって2022年7月末の純資産も本資料提出時点の暫定値です。

### 第17回新株予約権・第4回転換社債発行（2021年9月）

- 発行・行使・転換による当初調達計画
  - ✓ 新株予約権発行による調達 16百万円 →調達済み
  - ✓ 新株予約権行使による調達計画（当初行使価額ベース） 1,999百万円  
→調達進行中。2022年1月末までの累計調達額 167百万円
  - ✓ 転換社債は2019年10月発行の第3回転換社債のリファイナンスのため新規調達なし

### 潜在株式を削減し希薄化懸念を払拭・軽減する資本政策の実行

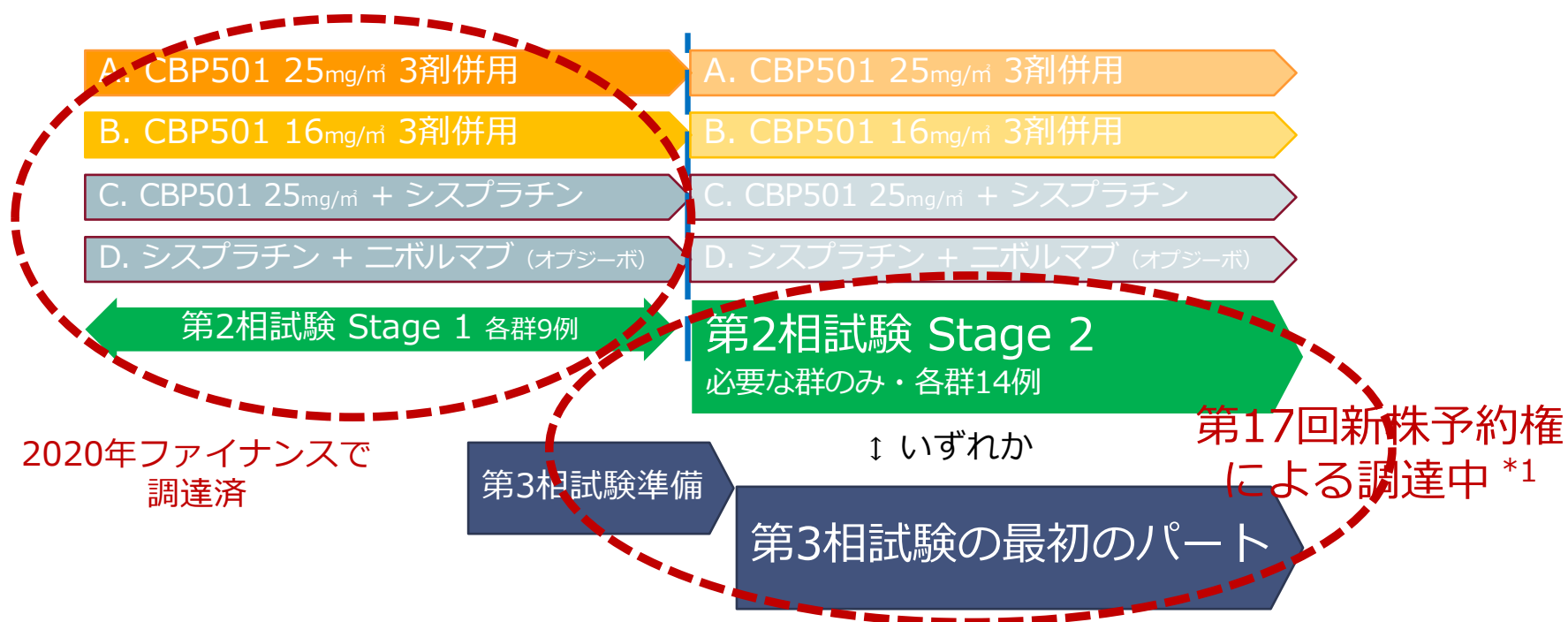
- 第15回新株予約権の未行使分消却（2021年12月）
  - ✓ 消却した未行使新株予約権 342,516株
- 第4回転換社債の一部買入消却（2022年1月）
  - ✓ 買入消却した未転換の転換社債 384百万円 1,360,533株分（下限転換価格ベース）



## 中期的な開発資金調達

第17回新株予約権（2021年9月発行）により次の開発段階の資金確保へ

- 発行・行使による調達総額見込み（当初行使価額ベース） 約2,000百万円



\*1 資金使途詳細については、2021年9月2日公表資料「第三者割当による行使価額修正条項付第17回新株予約権及び第4回無担保転換社債型新株予約権付社債（リファイナンス）の発行に関するお知らせ」をご参照ください。

# 調達資金の充当状況

(金額の単位：百万円)

調達手段	調達金額	公表済み資金使途	当初予定支出時期	当初予定支出金額	支出実績時期	支出実績金額	今後の支出予定時期	支出予定金額
第16回新株予約権	745	① CBP501臨床第2相ステージ1費用	2021年4月～2023年3月	650	2021年4月～2022年6月	175	2022年7月～ <b>2023年6月</b>	475
		② 運転資金*1 (1)	2021年6月～2021年7月	85	同左	85	—	—
		③ 運転資金(2)	2021年9月	10	同左	10	—	—
第4回転換社債	749	① 第3回転換社債借換	2021年9月	749	同左	749	—	—
第17回新株予約権	2,007	② 臨床第3相試験準備費用	2022年4月～2022年12月	160	未支出	—	2022年9月～2022年12月	160
		③ 運転資金	2021年12月～2023年6月	647	2021年12月～2022年6月	205*3	2022年7月～2023年6月	442
		④ CBP501臨床第3相パート1費用 または 臨床第2相ステージ2費用*2	2022年10月～2024年3月	1,200	未支出	—	<b>2022年9月～ 2024年3月</b>	<b>817*4</b>
			2022年6月～2023年3月		未支出	—		
		【公表資金使途予定外】 第4回転換社債一部買入消却	—	—	<b>2022年1月</b>	<b>383</b>	—	—

\*1 運転資金とは、販売費及び一般管理費・基礎研究費の合計を指します。

\*2 現在進行中の臨床第2相試験ステージ1の結果次第で、臨床第3相試験または臨床第2相試験ステージ2費用のいずれかに充当されます。

\*3 当該期間中の運転資金支出額は243百万円で、そのうち205百万円を第17回新株予約権による調達額から充当しました。

\*4 第4回転換社債一部買入消却で383百万円が支出されたため、今般、支出予定金額を変更したものです。

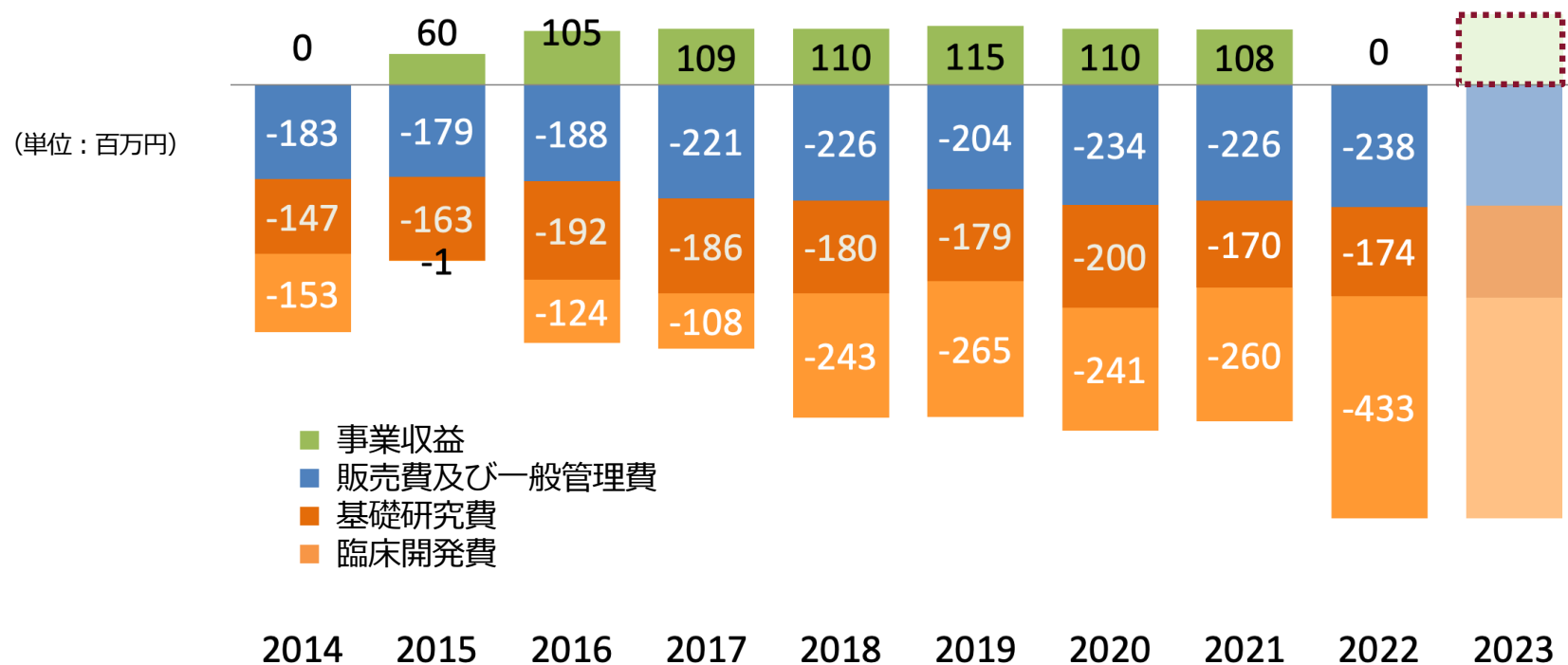
今後の行使（2023年3月頃までの見込みです）により今後調達される金額は未確定であり、これが変化した場合は、この\*4の金額を再度変更する予定です。

\* 第17回新株予約権の行使により2022年6月までに調達された金額は588百万円です。

# 2023年6月期の業績予想

引き続き不確定要因が多く、業績見通し非公表

- ✓ 事業収益・・・提携獲得実現に向け活動継続
- ✓ 事業費用・・・臨床第2相試験の進捗と今後の展開で研究開発費が大きく変動



# 時価総額基準適合に向けた取り組みの成功

## 東証グロース市場を選択。上場基準適合への取り組み表明

- [事業計画及び成長可能性に関するご説明資料](#) (2021年12月24日)
- [新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書](#) (2021年12月24日)

## 実行した取り組み

- 開発を進め企業価値を高めるための資金調達実施 (2022年9月)
- 潜在株式を削減し希薄化懸念を払拭・軽減する資本政策の実行
  - ✓ 第15回新株予約権未行使分全部消却 (2021年12月) ・ 第4回転換社債一部買入消却 (2022年1月)
- 丁寧な投資家リレーションによる開発価値上昇状況の周知
  - ✓ [CBS9106提携契約条件追加開示](#) (2021年12月24日)
  - ✓ [CBP501臨床第2相試験進捗状況月次開示](#)開始 (2022年1月から)
  - ✓ [「CBP501臨床第2相試験をご理解いただくために」](#) ブログ連載 (2022年1月6日から)
  - ✓ [「CBP501臨床第2相試験 3剤併用投与群で奏効 \(がんの縮小\) が確認されました」](#) (2022年6月15日)
  - ✓ [「CBP501臨床第2相試験 3剤併用投与群で複数の長期無増悪生存が確認されました」](#) (2022年6月20日)など、臨床開発の進捗と手応えを適時適切に開示

# 研究開発の状況

## (1) 臨床開発段階のパイプライン

---

## キャンバスの強み (2) がん免疫に着目したパイプライン戦略

### 中長期の企業価値の源泉として重視

	探索・創出	最適化	前臨床試験	臨床試験	提携・導出 共同研究
<b>CBP501</b>				第2相試験ステージ1実施中	
<b>CBS9106</b>	前臨床試験終了し導出済み			第1相試験完了	Stemline社
<b>CBP-A08</b> CBP501の系譜に属する ペプチド型免疫系抗がん剤	最適化終了				
<b>NEXTプロジェクト</b> がんの「治癒」を目指す 免疫系抗がん剤 (CBP-Bシリーズと統合)	CBT005				
<b>IDO/TDO阻害剤 ほか*</b>					静岡県立大学 ほか

※ 上記のほか、がん免疫領域で広く基礎研究を展開しています。

※ IDO/TDO二重阻害剤は、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）新規治療薬としての研究も継続（[2020年8月4日公表](#)）

# 臨床開発段階2化合物の進捗状況サマリー

## 免疫着火剤 CBP501

- フェーズ1b試験：膵臓がん3次治療で良好な結果
  - 病勢コントロール43%・白血球数正常値患者群でOS中央値5.9ヶ月
  - MSS直腸大腸癌でも良好な結果を示す（当面の臨床試験は膵臓がんを優先）
- **好感触を踏まえ臨床第2相試験を実施中。併せて提携獲得活動を活発化しています**
  - ✓ 臨床試験の月間進捗状況を開示 2021年12月分 2022年1月分 2月分 3月分 4月分 5月分 6月分 7月分
  - ✓ **ステージ1の被験者登録予定数36名 登録完了**（2022年8月16日公表）
  - ✓ 3剤併用投与群のひとつで奏効（がんの縮小）を確認（2022年6月15日公表） → **有効性の示唆か**
  - ✓ 3剤併用投与群で複数の長期無増悪生存（2022年6月20日公表） → **ステージ2または第3相への進行が確定**

## 可逆的XPO1阻害剤 CBS9106 (Felezonexor)

- 提携先Stemline社による米国臨床第1相試験完了
  - ✓ 臨床第1相試験完了（2022年2月14日）
- **XPO1阻害剤のベスト・イン・クラスを目指し、次相試験が計画されています**

# 免疫着火剂 CBP501

---



# 免疫着火剤CBP501：臨床第2相試験進捗直近状況 (1)

## 被験者登録と実施施設開設：当初計画を前倒して8月中旬に完了

➤ 月次進捗サマリー \*8月分は現地時間15日まで

	2021年 12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月*
被験者登録 単月	3	1	3	4	5	5	9	—	6
累計	3	4	7	11	16	21	30	30	36
実施施設開設 単月	1	—	—	2	1	2			
累計	15	15	15	17	18	20			

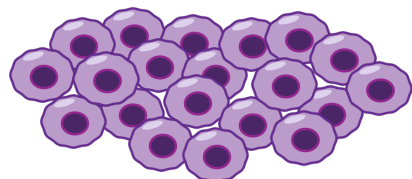
- ✓ ステージ1被験者登録予定36名の半数登録を5~6月達成の当初見込み → **5月達成**
- ✓ 実施施設数当初目標20件 → **5月達成** (新規開設終了)
- ✓ 8~9月被験者登録達成の社内目標 → **8月15日ステージ1被験者登録完了**

### 現在までに確認されているデータ

- 臨床第2相試験の今後のスケジュール・シナリオ等に影響を及ぼす情報
  - ✓ 3剤併用投与群のひとつで複数の長期無増悪生存を確認 (2022年6月20日公表)  
→ 当該3剤投与群が**ステージ2または第3相へ進行することが確定**しました
  
- 有効性を示唆する情報
  - ✓ 3剤併用投与群のひとつで奏効 (がんの縮小) を確認 (2022年6月15日公表)
  
- 安全性
  - ✓ 現時点で、フェーズ1b試験までに想定された範囲外の情報はありません

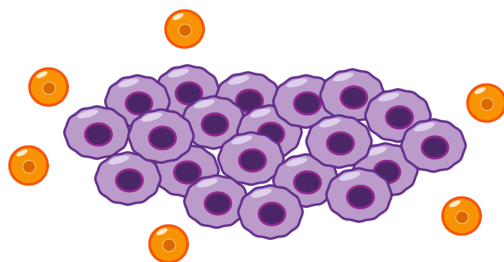
攻撃するための  
T細胞がない

免疫砂漠



T細胞ががん組織に  
入り込めていない

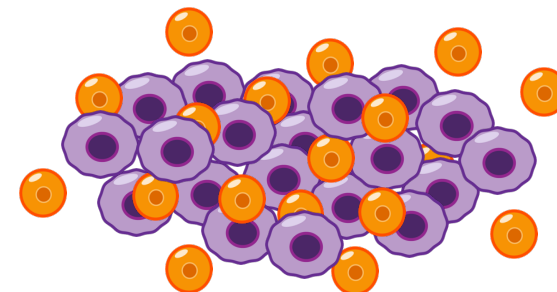
免疫排除



免疫コールドながんを  
免疫ホットながんに  
変えることが必要

T細胞が十分に  
がんを攻撃できる

免疫ホット

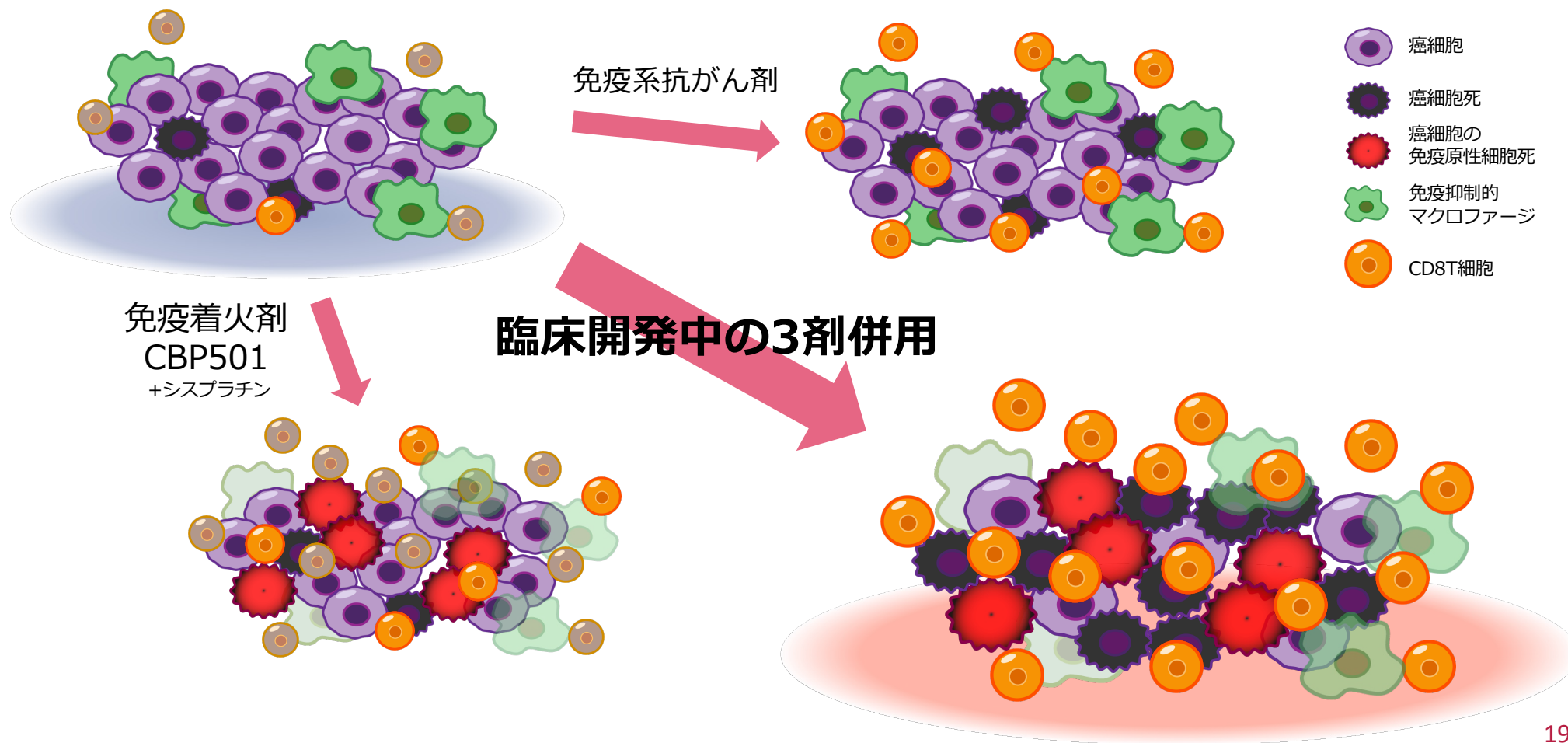


癌細胞



CD8T細胞

# CBP501の3剤併用で免疫系抗がん剤を効きやすくする



## 臨床第2相試験 次のイベント

### 3M PFS判明のスケジュール例

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
患者A	登録			3M PFS					
患者B			登録			3M PFS			
患者C					登録			3M PFS	
患者D						登録			3M PFS

累計登録18名の達成 → 8~9月頃に半数の3M-PFSR判明も

### 今後のイベント予定

- 初期の試験結果の感触を得る
  - ✓ 5月までに21例登録達成 → 9月にはステージ1の半数以上の3M-PFSが確認可能に  
→ その他の情報も含めて初期の感触が得られる可能性
- Stage 1の患者登録終了（4つの投与群 各群9例 計36例）
- 中間解析結果
  - ✓ Stage 1の終了後に、中間解析を実施予定

# 可逆的XPO1阻害剂 CBS9106

---

## 進捗状況

- 臨床第1相試験完了 (2022年2月14日公表)

## 第1相試験データの評価と次相臨床試験検討の状況

- Stemline社SABは本試験で得られた安全性・有効性データを高く評価
- 次相臨床試験検討の状況
  - ✓ 臨床第2相試験は併用試験を想定し、CBS9106と組合せる併用薬の種類と対象癌腫の検討
  - ✓ 対象癌腫候補
    - 臨床第1相試験（対象：固形がん全般）では、複数の癌種への有効性を示唆
      - 大腸がん
      - KRAS変異がん
      - 腎臓がん
    - ESMO2020発表後の患者フォローなども踏まえて別の対象癌腫の可能性も

# 研究開発の状況

## (2) 前臨床試験までの段階のプロジェクト



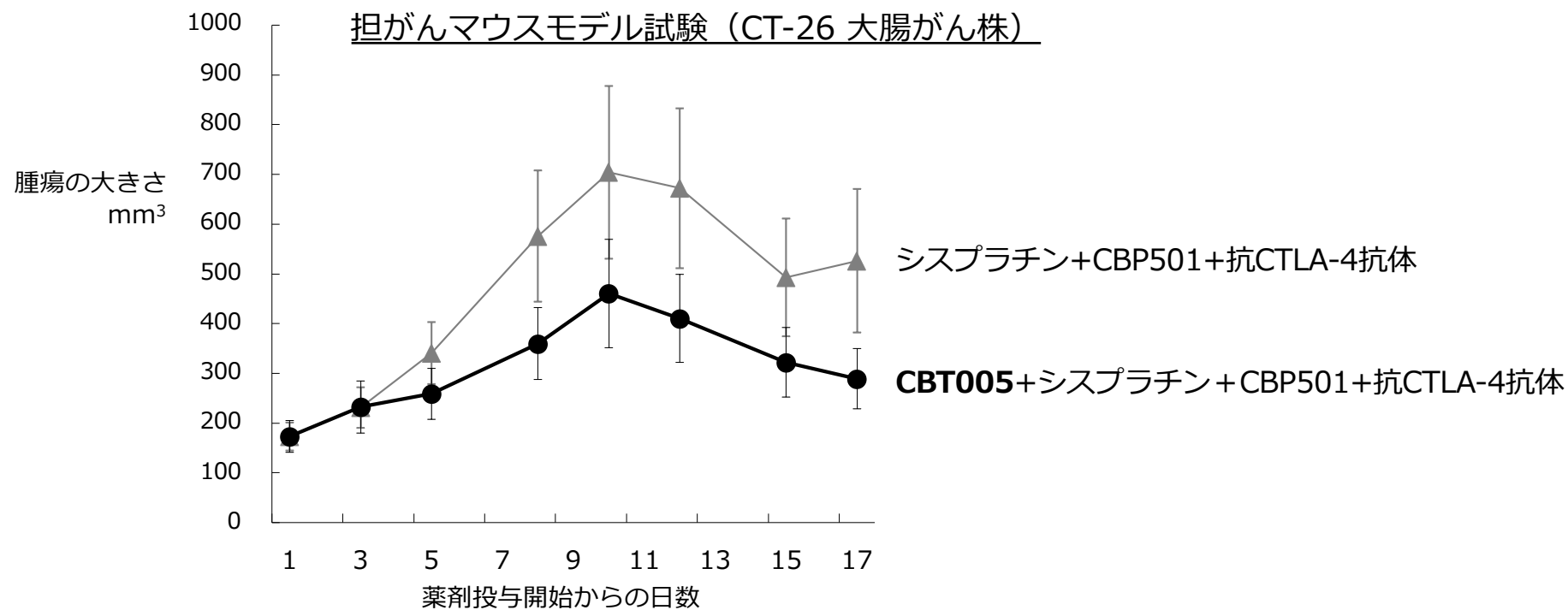
# 基礎研究～非臨床試験段階のプロジェクトの状況

## 基礎研究～非臨床試験段階のパイプライン (ピックアップ)

- CBT005 (2021年11月12日適時開示)
  - ✓ マウス実験段階だが魅力的な抗腫瘍効果データ獲得
  - ✓ 社内の薬効確認試験 (実施中) を経て前臨床試験への進行有無を判断
- CBP-A08
  - ✓ 最適化を完了し、財務状況等を勘案し前臨床試験開始を模索
- IDO/TDO二重阻害剤
  - ✓ 静岡県立大学と共同研究で最適化を進行中。COVID-19新規治療薬への用途拡大研究にも着手
- NEXTプロジェクト
  - ✓ 新たなコンセプトの免疫系抗がん剤候補化合物の探索創出
- 抗がん剤感受性予測システム
  - ✓ 患者様個々の体細胞変異情報を用いて抗がん剤治療の結果を予測

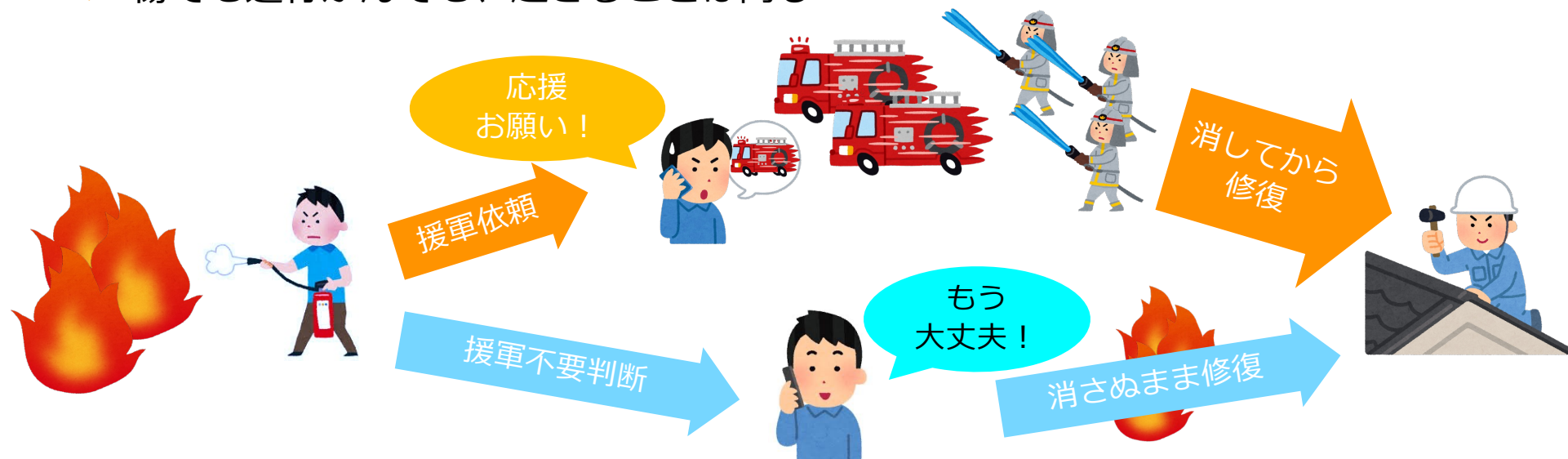
## 基礎データ

- CBT005 + シスプラチン + 抗CTLA-4抗体に**CBT005**を加えた4剤併用非臨床試験



## コンセプトのご紹介

- がんは古くから“wound never heal”（治らない傷）と呼ばれてきた
- 傷でも進行がんでも、起きることは同じ



- CBT005は消防作業(=炎症)終了指令を消防作業継続拡大指令に変える

# キャンバスを知る情報源

---

- ウェブサイト <https://www.canbas.co.jp>
  - マネジメントブログ <https://www.canbas.co.jp/blog/>
- Twitter公式アカウント <https://twitter.com/canbas4575>
- アナリストレポート
  - ▶ フェアリサーチ 2022年2月8日最新版『夏場には朗報の可能性も』  
<https://column.ifis.co.jp/company/143379>
  - ▶ シェアードリサーチ (随時更新)  
<https://sharedresearch.jp/ja/4575>
- TV等出演
  - ▶ 日経CNBC『攻めのIR Market Breakthrough』  
<https://www.youtube.com/watch?v=tZbSEhhyutI>
  - ▶ 櫻井英明WEB 企業IRセミナー 2022年5月28日配信  
<https://youtu.be/X2-SIbeNxzQ?t=9418>



■将来見通し等に関する注意事項

- ▶ 本資料は、当社に関する情報の提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- ▶ 本資料における将来予想・見通し等に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- ▶ 業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。
- ▶ 本資料は、受領者がいかなる目的にご利用される場合においても、本資料受領者ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示するものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

■お問い合わせ先： 株式会社キャンバス 管理部 IR担当  
Email [IR@canbas.co.jp](mailto:IR@canbas.co.jp)